

## 4. さぐってみよう昔のくらし

むかし



### 貝塚

食べ終わった後の骨や貝殻などや、使えなくなった石器などが発見され、当時の生活の様子を知ることができます。遺跡です。



民俗資料館の石器

### 1 室蘭のむかしむかし

現在、北海道にはおよそ540万人、私たちの室蘭市は市民およそ8万6千人が生活しています。私たちの住んでいる北海道や室蘭には、いつ頃から人々が住み、どのような生活をしてきたのでしょうか？

やすこさんたちは、陣屋町にある「室蘭市民俗資料館」を見学し、むかしの遺跡や歴史などを調べてみることにしました。

#### (1) 縄文人のくらし

室蘭周辺に人が住みはじめたのは、その生活のあと（遺跡）として市内で一番古い絵鞆遺跡から、約7千年前と考えられています。土器や石器、骨格器、などの生活道具と思われるたくさんのかけらや住居跡が見つかり、貝塚からは食べものにした魚や貝、動物の骨がでてきました。また、当時のお墓もみつかり、人骨がほり出されています。

年 代	時 代 名	室蘭の近くの主な遺跡 <small>いせき</small>
7000年前 ～2000年前	じょうもんじだい 縄文時代	えとも シュクブ モトワニシ ウニシ オシベツ 絵鞆、祝津、本輪西、輪西、鶩別など
2000年前 ～1300年前	ぞく 統縄文時代	だいこくじま 絵鞆、祝津、イタンキ、鶩別、大黒島など
1300年前 ～800年前	さつもん 擦文時代	ふなみ 絵鞆、舟見町など
800年～	アイヌ文化時代	ますいち さきもり 絵鞆、増市、崎守など

今からどれぐらい前の遺跡が、どんなところにあったのかをまとめた表

それらを調べることで、当時の人々のくらしや文化などをはかり知ることができます。また、そのころの室蘭地方の気候や地形なども知ることができる手がかりとなっています。

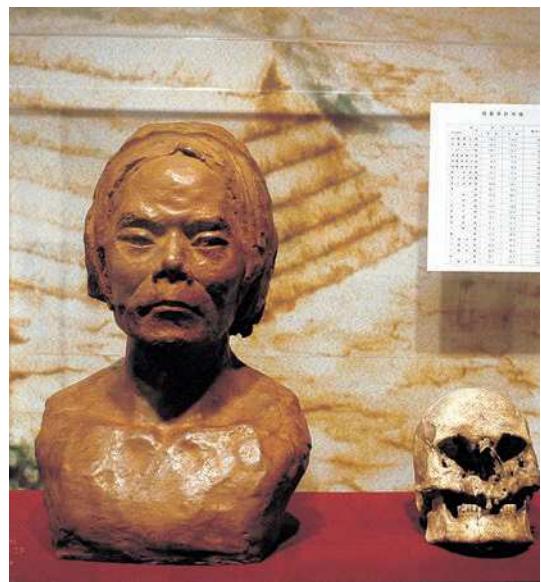
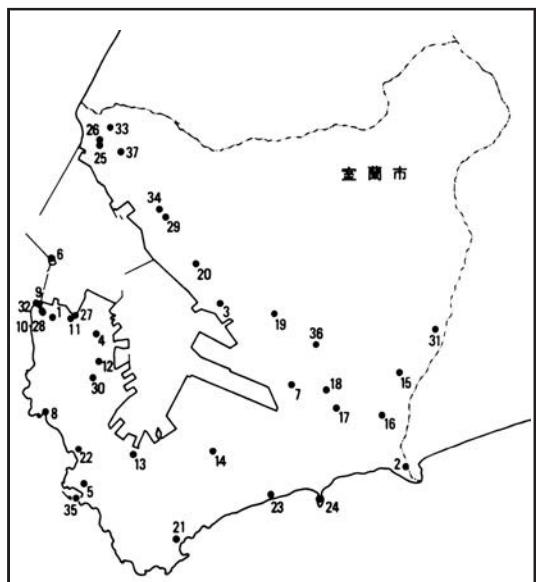
輪西遺跡からは、今から3千年前の縄文時代に作られた土偶が発見され、東京の国立博物館に保存されています。

また、絵瓶の遺跡から取り出された頭蓋骨にもとづいて復顔された、およそ2千年前の縄文時代人の頭像が民俗資料館に特別展示されています。

市内には、37の遺跡があり、そこからは縄文時代やそれに続く時代の様々な文化遺産が見つかっています。しかし、現在は住宅地や道路などになっていて、見ることができない遺跡があります。

### 土偶

人をかたどった人形のようなもので、当時の人々の願いごとや、お祈りやおまつりに使用されたと考えられていますが、何に使われたものは、まだよく分かっていません。



室蘭市内の遺跡の地図と復顔された縄文人の顔

## ● (2) 北海道先住民 (アイヌの人たち)

### のくらし

アイヌ  
「人間」という意味  
のアイヌ語で、和  
人のことは、「隣  
人」という意味の  
「シサム」とよんで  
いました。



チセ（家）のもけい

北海道には和人が本州から移住する以前から、自然の神々（カムイ）に感謝し、自然からの恵みを大切にし、共存の心をほこりにするアイヌの人たちが住んでいます。

北海道の豊かな自然の中で、独自の文化を築いてきたアイヌの人たちの、生活や心の世界を調べてみましょう。

アイヌの人たちは、サケを食料にしていたので、卵を生むために流れをさかのぼってくる川岸や海岸に数けんほどが集まり集落（コタン）をつくって生活していました。知恵と経験のあるものが村長となって人々をまとめていました。



コタンのようす（想像図）



みんぞく しりょうかん てんじ  
民俗資料館に展示されているアイヌの人たちが使った着物や道具

か  
狩りの得意な男たちは、野や山でクマやシカ、キツネやウサギなどの野生動物を、川や海ではサケなどをとっていました。

一方、暮らしを守る女たちは、木の実や山菜を採ったり、野草のウバユリの根からでんぶんを作ったり、畑でアワやヒエなどを栽培し、それを粉にしてつくったおかゆやだんごを食べて生活していました。

アイヌの人たちは、とった獲物<sup>えもの</sup>などを、神からいたいしたものと考え、大切にするとともに、自然への感謝の祈りをいつも忘れませんでした。

アイヌの人たちは「アイヌ語」を話していましたが、それを書き残す文字をもっていませんでした。しかし、祖先からのくらしの知恵や教え<sup>でんせつ</sup>、伝説などを語り伝えることによって記憶し、アイヌ民族の歴史として代々受け継いできました。

北海道のよび名  
当時、北海道は、  
アイヌの人たちに  
とっては「アイヌ  
モシリ」、和人は  
「蝦夷地」と呼ん  
でいました。

**交易**  
互いに品物などを  
交換し合うこと。  
当時、交易してい  
た品物は、アイヌ  
の側から水産物  
(サケ、マス、コ  
ンブなど)・熊や  
鹿の皮・鶴や鷹の  
羽根などが、和人  
側からは、米・  
酒・煙草・塩・漆  
器類などが交易の  
品となっていたよ  
うです。

### (3) アイヌの人たちと和人の歴史

アイヌの人たちと和人(本州から渡って  
きた人々)は、自分たちの生活に必要な  
ものを交換し合ってなかよくくらしてい  
ました。交易は、昔から行われていま  
したが、和人の数が増えてくると互いの生  
活や文化にも変化を生み出しました。

今から400年ほど前から、道南の松前付  
近を和人が支配するようになり(松前  
藩)、アイヌとの交易によって得た物を商  
人たちに売って収入を得ていました。

室蘭地方では、エンルム岬(絵鞆岬)  
の丘に交易の場が設けられました。この  
地方は「絵鞆場所」とよばれています。

そのうちに、もうけの一部を松前藩に  
納めるという約束で、アイヌの人々との  
交易を商人にまかせるようになりました。  
そして、物々交換のきまりは松前藩の有  
利になるように決められたため、アイヌ  
の人たちは、不公平な取り引きでどんど  
ん利益を失い貧しくなってきました。

そのため、アイヌの人たちの不満はつ  
のつていき、1669年には、シブチャリ  
(静内)の代表「シャクシャイン」が中  
心になり、全道各地のアイヌの人たちを  
率いて、松前藩と戦いました。しかし、  
松前藩のだまし討ちでリーダーを失い、  
アイヌの人たちは敗れてしまいました。

この後も、交易の不正やアイヌの人た  
ちをむりやり働かせたりしたことなどが

もとで、和人との戦いがたびたび繰り返されましたが、しだいに和人たちの勢力は強くなっていました。

そして、1869（明治2）年からは、蝦夷地が「北海道」と呼ばれるようになりました。

アイヌの人たちは山や川を奪われ、川での漁や鹿などの狩猟ができなくなったり、農業や日本語を押しつけられるなど伝統的な生活や文化を失っていきます。

しかし、北海道には自然や生活の様子などを表現したアイヌ語地名がしっかりと生き残っています。また、先住民としてほこり高く守り抜いてきたすばらしい文化や伝統は、後世に残していくこうとする多くの人たちの協力で、現在も引き継がれています。



シャクシャイン像

## コラム 各地に残るアイヌ語の地名

道内には、室蘭市と同じように、アイヌ語がもととなつて、名前がついたまちがたくさんあります。

- ・登別（のぼりべつ）→「ヌフル・ペツ」（濁つた・川）
- ・洞爺（とうや）→「ト・ヤ」（湖の岸）
- ・白老（しらおい）→「シラウ・オイ」（虻の多いところ）
- ・壯瞥（そうべつ）→「ソー・ペツ」（滝・川）
- ・知床（しれとこ）→「シリ・エトク」（大地の・先）

もちろん、名前の起源にはまだはつきり分からなかつたり、他の説があるものもあります。みなさんも図書館やインターネットで調べてみるとおもしろいですよ。

## 2 室蘭の悲しい記憶

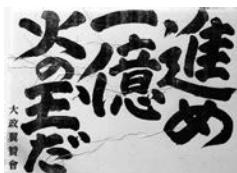
### (1) 戦争と人々のくらし

1937（昭和12）年からの長引く中国との戦争に加えて、日本軍は、1941（昭和16）年にアメリカのハワイを襲撃し、太平洋戦争が始まりました。

戦争がさらに長引くにつれ、室蘭市民の生活にも少しずつ悪影響が出てきました。当時の市民生活のようすを調べてみましょう。

生活に必要なあらゆる物が不足し、自由に買うことができなくなり、配給制となりました。戦争で使う金属などがたりなくなったりしたため全国民から金属製品を寄付させ、絵の具のチューブやアルミの弁当箱まで集めて使いました。幼い子ども達も、ひもじさをこらえ、「ほしがりません勝つまでは」、「ぜいたくは敵だ」と、がまんをさせられ、苦しい生活を強いられました。

また、食料をふやすために、小学校のグラウンドの固い土をほりおこし、畑をつくり、じゃがいもやかぼちゃを作りました。高校生ぐらいの人は、工場に働きに行かされたり、戦いの訓練をさせられたりしました。また、敵を迎撃するために、八丁平に飛行場をつくったり、高射砲を設けたりしました。



こくいはつよう  
國威發揚ポスター



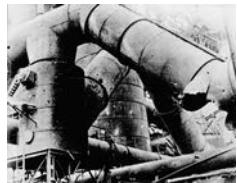
ぐんじきょうれん  
軍事教練

## (2) 空襲と艦砲射撃

戦争が始まった頃は、戦場は東アジア全域におよぶ遠い南の島や中国大陆でした。が、戦争末期になると日本の国土が攻撃されるようになりました。

1945年（昭和20年）、7月14日早朝、空襲警報のサイレンが鳴りました。アメリカ軍の戦闘機があらわれ、汽車や船、工場などがつぎつぎと攻撃されました。室蘭港内では、10数せきの船が沈められました。7月15日朝には、アメリカ海軍の軍艦が地球岬の沖から、港や工場をめがけて、いっせいに大砲をうってきました。

ひがい  
製鉄所の被害



ふはつだん  
不発弾



ほうだんあと  
砲弾跡の中島地区とその拡大写真（航空写真）

くうしゅう かんぽうしやげき  
このような空襲や艦砲射撃によって、日本製鉄所（今の新日鉄）や日鋼の工場がこわされ、輪西駅付近の線路はあめのようにまがり、汽車はほとんど止まりました。また、道路や住宅にも大きな被害があり、市内のあちこちで水道管がはれつし、水びたしになりました。

なくなった人は439人、ひがいにあった家が1700戸近くありました。人々は、再び空襲や艦砲射撃におそれるのでないかと心配しました。それで、荷物をつんだ車をひいて、大急ぎで伊達や白老ににげる人たちが多く、市街地からは住民が消えて、一時は人口が減り、室蘭はさびれてしまいました。

中島本町や八幡神社には、艦砲射撃で尊い命をなくした人々をまつる「慰靈碑」がたっています。

### 被害を受けた人の話

私は大沢町2丁目、立雲寺の上に自宅があり、6人家族でした。午前9時をい  
くらか過ぎた頃だったと思います。空襲警報が鳴り、小さい子ども達は町内会の  
防空ごうに避難し、私と妻と長男は家から3㍍はなれた自分たちの防空ごうに避  
難しました。

輪西の町は静まり返っていた時です。けたたましい爆音で敵の飛行機が飛んで  
きたのです。その時は何事もなく飛びさったのですが、まもなく、耳がはりさけ  
んばかりの爆発音が數十回も続きました。こともあるうちに、その一発がわが家の  
玄関先に落ちたのです。私たち3人は、防空ごうもろとも投げ飛ばされ、一瞬目  
の前が真っ暗になりました。妻や長男に「しっかりしろ」と声をかけところ、ど  
うやら生きているようす、私はぼうきれをつかんでありったけの力で土をはねの  
け、外へ出る穴を開けました。顔を出してびっくり、玄関先を中心にして直約10㍍、  
深さ5㍍ほどの穴があいているのです。私は、外へはい出し、夢中で妻と長男を  
引きずり出しました。あの時の恐ろしさは、一生忘れません。



慰靈碑（中島本町）



防空壕の中のようす

### (3) イタンキの慰靈碑

戦争中、室蘭の工場や港では、たくさんの朝鮮人や中国人が、働かされていました。この人達の中には、日本軍におどされて、自分の国からむりやり連れて来られた人たちもいました。働く条件や生活が、大変きびしく、たくさん的人人が苦しめられ、死んだり、苦労してにげたりしました。

戦争が終わって間もないころ、イタンキ浜から白骨化したたくさんの遺体がほりだされました。戦争中、室蘭の港や工場で働かされ、病気やけがなどで死んだ人たちの骨でした。

今は、イタンキ浜をみおろす場所にたましいをまつり、世界の平和への願いをこめたピラミッド型の白い石碑がたっています。

### おじいさんの話

戦争をしていたころ、鉱山や工場・港では、たくさんの中国人や朝鮮人が働いていました。この人たちの中には、自分の国にいるとき、日本軍に鉄砲でおどされて、つれてこられた人たちもいました。炭坑で働いていた人の半分以上は中国人、朝鮮人でした。

朝4時に起こされ、そまつな食事をして坑道をきり開く仕事、岩石をくずす仕事など一番きけんなところで働かされました。夜9時半ころ仕事が終わり帰る時は、話もできないほどつかれていきました。

室蘭には、およそ1800人の中国人が今の本輪西町、中央町、知利別町につれてこられ工場や港で原料の運搬などをさせられました。また、1942年から1944年にかけて3000人の朝鮮人がつれてこられました。

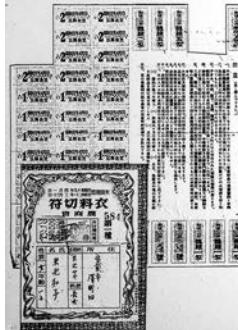
まずしい食事とつらい仕事でにげ出す人もずいぶんいました。栄養失調で死んだ人もいて、最後は2000人ぐらいになっていたということです。



殉難烈士の碑



まずしい食事



戦時中の配給切符と  
ポスター



#### (4) 戰争が終わる

#### 苦しい生活

広島・長崎に「原子爆弾」が落とされ、これ以上戦争を続けられなくなった日本は、1945（昭和20）年8月15日、連合軍に降伏しました。

戦争は終わりましたが、食べる物、着る物、ねん料、日用品などすべてのものが不足していました。米や塩などは配給制で量は少なく、いつも食料を集めるために苦労しました。そのころ中島町に住んでいた、あるお母さんが1946（昭和21）年に食料の配給とこんだてを日記に書いていました。

2月22日	昼食、配給のでんぶんカスのだんご 夕食、きざんだカブ入りのおかゆ
4月24日	米3合配給
4月25日	正油2・3か月分、玉ネギ、ニンジン配給 行列して1時間以上ならぶ
4月26日	ニシンの配給。夕食に塩味のおしるこを作る
5月21日	米1日分、麦2日分配給
6月4日	みそ、塩、配給
7月13日	麦5日分配給

食料が不足して、どこの家でも少しの空地、あれ地や山などをたがやして畑にし、イモやカボチャなどを作りました。

また、遠くの農家へ買いに行きました。駅で行列して切符を買い汽車に乗り、持

っていった自分の服や着物を米や野菜などに、とりかえてもらいました。このような生活を「タケノコ生活」といい、しばらく続きました。

着る物も配給制でしたから、やぶれた上着やズボンにぬのをあてて着ていました。

冬はねん料が不足して、れん炭、オガ炭などをもやして寒さをしのぎました。

戦争に負けたあと、カラフト、千島、朝鮮、満州などから、たくさんの人たちが引きあげてきました。

北海道にも、たくさんの人たちがもどってきましたが、仕事が見つからず、たいへん苦しい生活が続きました。



たけのこ生活



どんなごはんを食べていたか  
想像もできないよ。



つらい生活だけど、お互い助  
け合いながら、がんばってい  
たんだわ。



食料の買い出しのようす

# むかし調べ

時代	ち　いき 地域のおじいさんやおばあさんが 生まれる前（100年くらい前）	ち　いき 地域のおじいさんやおばあさんが 子どものころ（60～70年くらい前）
道具	 <p>※せんたく板</p>  <p>※木せい れいぞうこ</p>  <p>電　話</p>	 <p>※せんたく箱</p>  <p>電　話</p>  <p>※ラジオ</p>
暮らしのようす	<ul style="list-style-type: none"> <li>家事はお母さんが中心で、子どもたちは、家のお手伝いをよくした。</li> </ul> <p>※ </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争で多くの工場がこわされ、生活に必要なものが不足した。</li> <li>子どもたちの遊び 「竹馬　お手玉　おはじき めんこ　ビー玉　けん玉 こま　たこ　など」</li> </ul> 
社会のようす	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカやヨーロッパの進んだ文化が、たくさん入ってきて、くらしが大きくかわった。</li> <li>鉄と鋼<small>はがね</small>をつくる工場が室蘭にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな戦争があった。</li> <li>物が足りない時期もあり、人々は協力して生活していた。</li> </ul>

※印は室蘭市民俗資料館所蔵

ともこさんたちは、むかしの道具やくらしを調べたカード、おじいさんやお母さんから聞いたことなどをもとに年表にまとめてみました。

### お父さんやおかあさんが子どものころ(20~30年くらい前)



せんたくき



カラーテレビ



けいたい電話

- ・電気せいひんがたくさん使われるようになった。
- ・子どもたちの遊び



テレビゲーム機



けいたいゲーム機

- ・新しい物や(ね) (値だんが)高いものがたくさん売られ、買われた時期だった。(バブル景気)
- ・昭和から平成にかわった。

### 年表のつくり方

- ・年表のわくを大きな時期で分けてつくる。今回は3つの時期に分ける。
- ・左から右へ、古いじゅんにならべる。
- ・道具のうつりかわりのほかに、そのころの人々のくらしのようすや社会のようすなども書きこむ。
- ・絵カードや写真などをはって、年表にまとめる。



むかしの人のちえや努力の  
おかげで便利になってきた  
んだね。

くらしをよりよくしようとする人々の願いがあつて、道具がかわってきたんだね。

